

公開実用 昭和61-177631

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭61-177631

⑪ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和61年(1986)11月6日

A 61 H 7/00

1 0 2

7242-4C

15/00

1 0 1

7242-4C

F 16 F 15/00

6581-3J

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 マッサージ機

⑮ 実 願 昭60-61223

⑯ 出 願 昭60(1985)4月24日

⑰ 考 案 者 岩 本 浩 範 門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内

⑱ 出 願 人 松下電工株式会社 門真市大字門真1048番地

⑲ 代 理 人 弁理士 竹元 敏丸 外2名

明細書

1. 考案の名称

マッサージ機

2. 実用新案登録請求の範囲

施療子を配設した施療台と、前記施療台に設けて施療子を支持するガイドレールとを備え、前記施療子をガイドレールに沿って移動自在としたマッサージ機において、複數個の分割片を連設し、各分割片を夫々弾性部材にて連結してガイドレールを構成するとともに、前記各分割片を夫々弾性部材を介して施療台に支持したことを特徴とするマッサージ機。

3. 考案の詳細な説明

〔技術分野〕

本考案はマッサージ機、特に施療子を施療台に移動自在に設けたマッサージ機に関するものである。

〔背景技術〕

従来、施療子を施療台に設けたガイドレールに沿って移動自在としたものが提供されており、例

例えば実開昭57-169323号公報にて知られている。
これは人体の背骨の形状に近似させて湾曲形成したガイドレールを椅子で構成した施療台に設け、
一対の輪体で構成した施療子を前記ガイドレールに沿って移動自在に配設したものであり、前記施療子が人体背面形状に沿って移動する為、効果的なマッサージが得られるものである。しかし、前記ガイドレールの形状が平均的な人体の背面形状に近似させて形成されており、背面形状は使用者によって様々である為、全ての使用者に対して効果的なマッサージを行なうことはできなかった。

〔考案の目的〕

本考案は上記の点に鑑みて成したものであって、その目的とするところは、任意の人体施療部の形状に沿って施療子が移動自在であり、全ての使用者に対して効果的なマッサージを行なうことができるマッサージ機を提供することにある。

〔考案の開示〕

以下、本考案の実施例を第1図乃至第4図に基づいて説明する。これは施療台を構成する椅子10

の背もたれに一对の輪体3、3から成る施錠子を配設したものであって、前記椅子10はパイプで組まれるとともに座部と肘掛けとを備えたアンダーフレーム2と、同じくパイプで組まれた背もたれのフレーム1とで枠組みされたものであり、前記フレーム1の下端部がアンダーフレーム2に枢支されるとともにフレーム1とアンダーフレーム2との間にガススプリング28が取り付けられて、背もたれがリクライニング自在とされている。前記フレーム1両側には夫々断面がコ字形状で開口面が対向する一对のガイドフレーム11、11が固着されている。又、フレーム1の上端にはヘッドレスト13が取り付けられ、フレーム1の前面にはカバーシート14が取り付けられており、更にカバーシート14の背面側には長手方向に支持ベルト29が配設されている。前記一对の輪体3、3は夫々同方向に偏心し、且つ互いに逆方向に傾斜した状態で駆動軸4に取り付けられている。前記駆動軸4を回転駆動する第1のモータ5は口字形状のフレーム7の一側面に固定され、前記フレーム7の他

側面に固定されたギアボックス 6 内の減速装置を介して駆動軸 4 を駆動する。前記駆動軸 4 を回転駆動すれば、偏心傾斜した輪体 3 も同時に回転し、輪体 3 が偏心していることによって輪体 3 のカバーシート 14 側への突出量を周期的に変化させる。又、各輪体 3 が互いに逆方向に傾斜していることによって一対の輪体 3、3 のカバーシート 14 との接触部における間隔を周期的に変化させる。この二つの動きの組合せが人体背面に対するもみマッサージとなるものである。前記一対の輪体 3、3 は第 2 のモータ 8 によって椅子 10 の背もたれの上下方向に移動自在であって、フレーム 7 に取り付けられたチェーン 9 を第 2 のモータ 8 にて回転駆動することによってこの移動がなされる。前記第 2 のモータ 8 はフレーム 1 の下端に固定されたモータ固定板 15 に取付金具 16 にて固定され、第 2 のモータ 8 一端より突出された回転軸 20 にピニオン 21 が取り付けられている。前記チェーン 9 の両端は夫々フレーム 7 の上面及び下面に取り付けられており、チェーン 9 にピニオン 21 が噛み合わさ

れるとともにモータ固定板15に回動自在に配設されたガイドギア22及びフレーム1の上端に固定された取付板17に回動自在に配設されたガイドギア23、24にてチェーン9は支持されている。前記フレーム7の両側面には夫々ガイドフレーム11に配設されたガイドレール12上を転動するころ19が回動自在に配設されている。前記ころ19はガイドフレーム11とガイドレール12との間に嵌合されて一対の輪体3、3の上下動における走行ガイドとなるものである。前記ガイドレール12は金属や硬質プラスチック等でできた平板状の分割片25を複数個連設し、各分割片25を夫々板ばねやゴム等の弾性部材26にて連結して構成されており、前記各分割片25は夫々コイルばね等の弾性部材27にてガイドフレーム11に支持されている。前記ガイドレール12の両端は夫々ねじ18にてガイドフレーム11に固定されている。

前記椅子10に使用者が腰かけていない状態では、第4図(a)に示す如くガイドレール12は各分割片25が弾性部材27にてガイドフレーム11に支持さ

れていることから直線形状を保持している。使用者が椅子10に腰かけてマッサージを行なう場合は、第4図(b)に示す如く輪体3が人体背面にて押圧される為、ガイドレール12が人体背面形状に応じて撓む。ここで、第1のモータ5にて輪体3を回転させれば人体に対してもみマッサージが行なわれ、前記輪体3の回転を停止させた状態で第2のモータ8にて輪体3を背もたれの上下方向に移動させると、ガイドレール12が人体の背面形状に応じて撓む為、輪体3は人体背面に沿って移動してさすりマッサージが行なわれる。

次に、本考案の他の実施例を第5図乃至第8図に基づいて説明する。これは複数本のローラ32をチェーン40にて環状に連結してなる施療子を施療台を構成するケーシング31内に配設して、ふくらはぎや足裏等をマッサージするものである。前記各ローラ32は略円柱状で長手方向に支持軸33が貫挿されており、前記支持軸33の両端は夫々連結板34に固定されている。前記連結板34はチェーン40に貫通固定された固定軸35の一端に固定され、又

前記固定軸35の他端にはその周側面両端にフランジが形成されてガイドレール12上を転動するころ39が遊転自在に取り付けられている。前記ガイドレール12は金属や硬質プラスチック等でできた平板状の分割片25を複数個連設し、各分割片25を夫々板ばねやゴム等の弾性部材26にて連結して構成されており、前記各分割片25は夫々ケーシング31両側壁内面に対向して配設された一対の支持板36にコイルばね等の弾性部材27にて支持されている。前記ガイドレール12の両端は夫々ケーシング31底壁より突設された一対のシャーン37、38に固定されている。前記複数個のローラ32を回転駆動するモータ41の一端より突出した回転軸42にピニオン44が取り付けられており、前記ピニオン44と噛み合うギア45を固定した駆動軸43がケーシング1の両側壁内面に軸支されている。前記駆動軸43の両端には夫々チェーン40と噛み合う一対の駆動スプロケット46、46が固定されている。前記駆動軸43に対向してシャーン38に軸支された従動軸48の両端に夫々チェーン40と噛み合う一対の従動プロ

ケット47、47が固定されて、チェーン40が支持されている。前記ケーシング31上壁に形成された開口部50に複数個のローラ32が露出され、モータ41を作動すれば前記複数個のローラ32は第8図の矢印で示す方向に回転駆動され、各ローラ32がガイドレール12に沿って移動されることにより、ケーシング31上壁に押し付けたふくらはぎや足裏等の施療部をマッサージするものである。前記ケーシング31上壁に施療部を当接させていない状態では、ガイドレール12は第6図に示す如く直線形状を保持している。施療部、例えばふくらはぎを複数個のローラ32に押し付けてマッサージする場合は、第8図から明らかなように複数個のローラ32がふくらはぎにて押圧され、ころ39が回転して走行ガイドとなるガイドレール12がふくらはぎの裏面形状に応じて撓み、複数個のローラ32がふくらはぎの裏面形状に沿って移動する為、ふくらはぎの裏面全体に亘って効果的なマッサージを行なうことができる。ここで、ガイドレール12が撓むことによってチェーン40が撓み、駆動軸43及び従動軸

48に引張力がかかるが、従動軸48とシャーン38との間に設けたばね49にてこの引張力を吸収するようにしている。又、足裏等他の施療部の場合も同様で、施療部の形状にそって複数個のローラ32が移動して効果的である。

〔考案の効果〕

以上の如く、本考案は施療子を配設した施療台と、前記施療台に設けて施療子を支持するガイドレールとを備え、前記施療子をガイドレールに沿って移動自在としたマッサージ機において、複数個の分割片を連設し、各分割片を夫々弾性部材にて連結してガイドレールを構成するとともに、前記各分割片を夫々弾性部材を介して施療台に支持しているので、ガイドレールが人体施療部の形状に応じて撓み、施療子が人体施療部の形状に沿って移動自在である為、全ての使用者に対して効果的なマッサージを行なうことができるという効果を奏する。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の実施例の背面側の斜視図、第

2 図は同上の要部側面図、第 3 図は第 2 図の 3 - 3 断面図、第 4 図(a) 及び(b) は同上の使用状態図、第 5 図は本考案の他の実施例の斜視図、第 6 図は第 5 図の 6 - 6 断面図、第 7 図は第 6 図の 7 - 7 断面図、第 8 図は同上の使用状態図である。

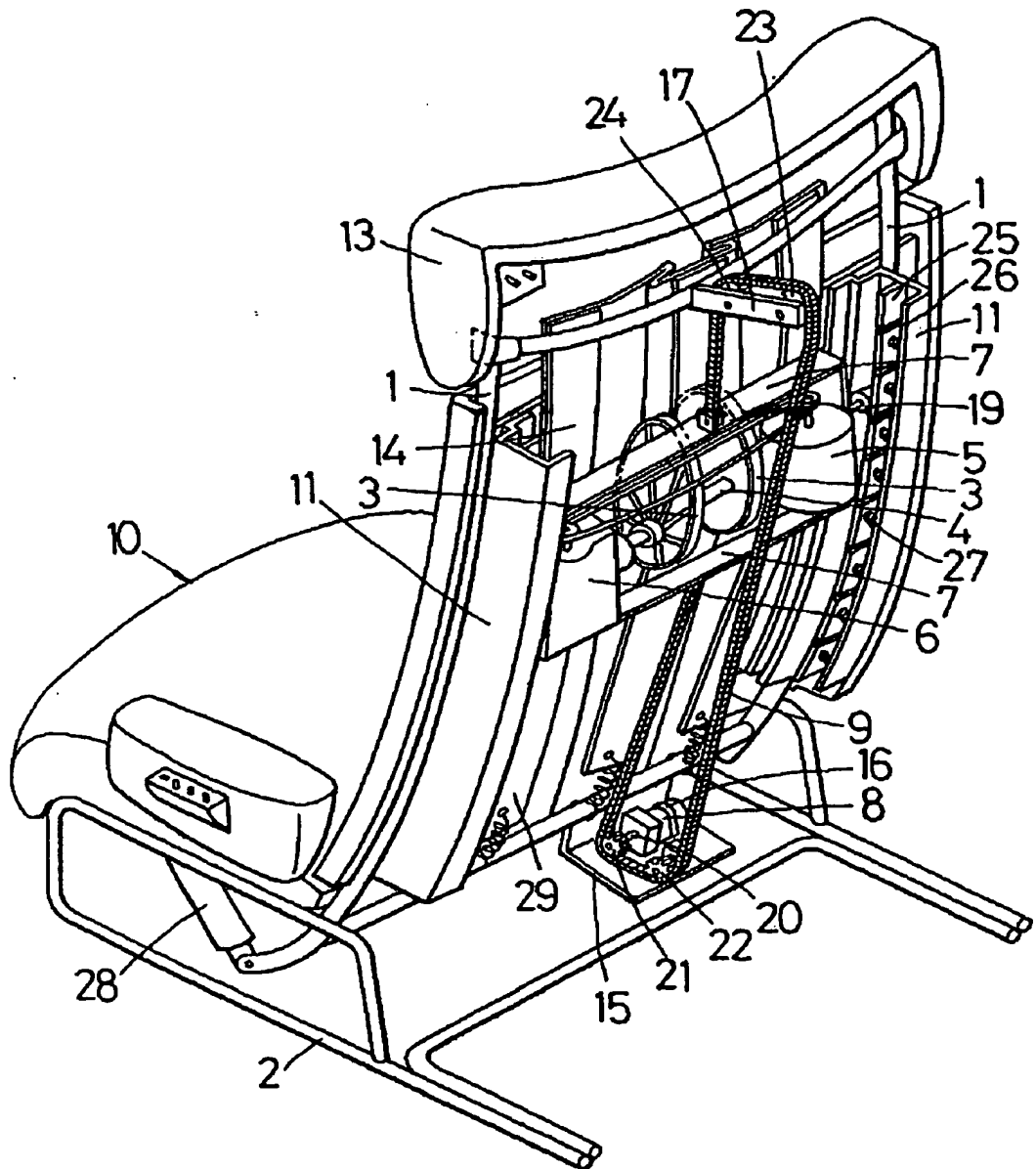
3……輪体（施療子）、10……椅子（施療台）、12……ガイドレール、25……分割片、26, 27……弾性部材、31……ケーシング（施療台）、32……ローラ（施療子）。

実用新案登録出願人

松 下 電 工 株 式 会 社

代理人弁理士 竹 元 敏 丸（ほか 2 名）

第1図



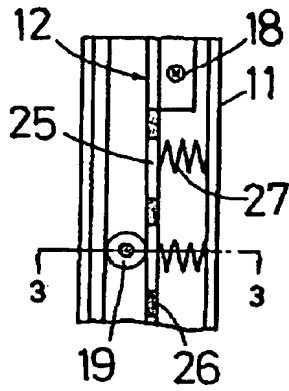
327

実開61-177631

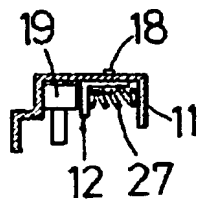
代理人 弁理士 竹元敏丸 外2名

60-241A1055

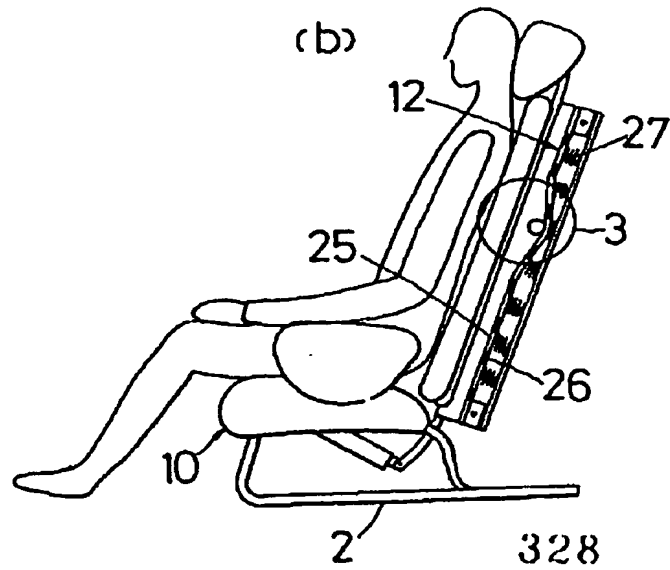
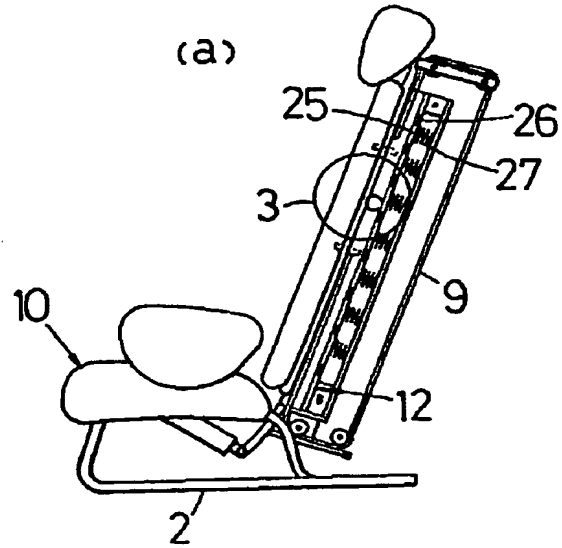
第 2 図



第 3 図



第 4 図

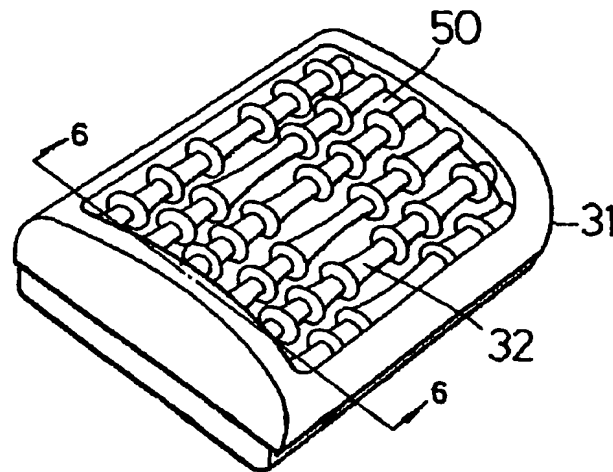


実開 01-177631

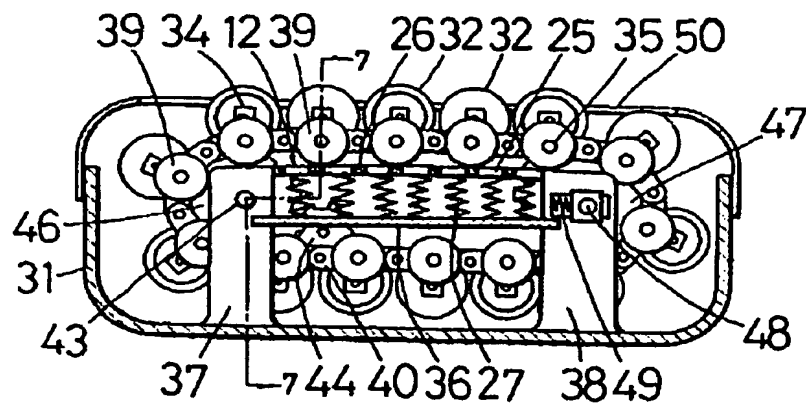
代理人 井理士 竹 元 敏 丸 外 2 名

60-241A1055

第5図



第6図

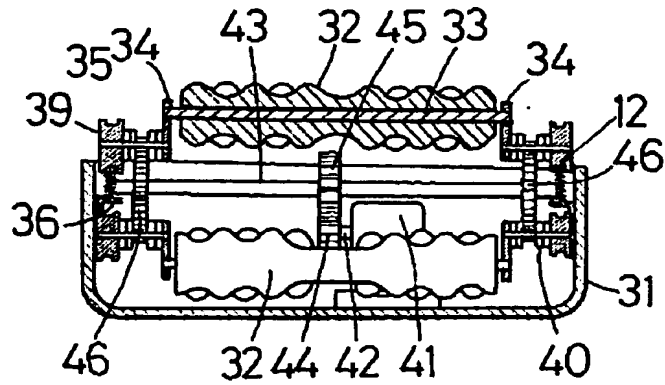


329

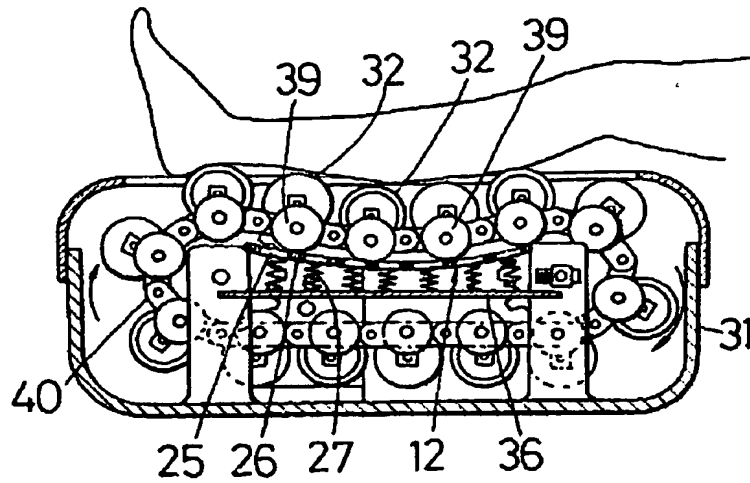
実開61-177631

代理人 井理士 竹元敏丸 外2名
60-241A1055

第 7 図



第 8 図



330

実開61-177631

代理人 井理士 竹元敏丸 外2名

60-241A1055